

メッセージアウトライン

ヨハネ9：1～12「行って、洗いなさい」

「またイエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた」(1) イエスはエルサレムの神殿でご自身が神を父と呼ぶ者であり、神のもとから遣わされてきた者であり、アブラハムが生まれる前から自分は存在すると主張された。これらのことによってユダヤ人たちの怒りを買ひ、イエスは石で打たれそうになったが身を隠して宮から出て行かれたのであった。そしてその道の途中、イエスは生まれつきの盲人を見られた。8節からわかるように、彼は道ばたに座って物乞いをしていた乞食であった。弟子たちは、彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからか。本人かその両親かと質問した。(2) これはクリスチャンでなくてもよくわかる人間の心理である。ところがイエスの答えは弟子たちの予想もしないものであった。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです」(3) 弟子たちは盲目の理由を本人や両親の過去に求めたが、イエスは未来における神のご計画、神のみこころを示されたのである。すべてのことは神の摂理、ご計画のもとに起こってくる。楽しいことばかりでなく病気や事故や苦しみもそうである。摂理とは偶然や宿命ではなく、神の用意されている目的のために、神の支配のうちに遂行される、人間に対する神のお取り扱いである。聖書は呪いとか祟りとか因縁とかそのようなことは一切教えていない。どのような障害、どのような病、どのような苦しみもすべて神のわざが現れるための道となるのである。イエスはこの生まれつきの盲人の目に、地面につばきをして作った泥を塗り、「行ってシロアムの池で洗いなさい」と言われた。(6~7) そこで彼が行ってその池で目を洗ったところ、彼の目は完全に見えるようになったのである。これがこの盲人であった男に対する神のわざであった。なぜ生まれつきの盲人が見えるようになったのか。それは彼が単純にイエスのことばに従った、全面的に信頼したがゆえの結果であった。イエスのつばとか、それによって作られた泥が何か奇跡的な力を持つのではない。彼は単純にイエスのことばに従ったがゆえにこのようなすばらしい奇蹟を体験することになった。意地を張って動かなかつたら何もしないでいらただろう。イエスの力、神の力は信じ従う者に現れるのである。私たちが障害があっても絶望する必要はない。なかなか直らない病の中にあっても喜びを持つことができる。苦しみの中にも希望がある。それは神がその一人一人の状況を通してみわざを現してくださるからである。また長い人生において私たちの愚かさや罪深さから問題が起こり、苦しむことがある。しかしすべては全知全能の神の支配の中にある。私たちがこのイエス・キリストのことばに従う時に光が与えられ道が開かれるのである。

イエスはこの盲人のいやしという出来事を通してご自身が神のもとからこられたお方であるということを示された。しかし単にイエスは奇蹟を行うためにこの世に来られたのではない。その目的とするところは人類の罪の救い、贖いである。イエスはそのために十字架を目指して進んで行かれるのである。イエスは地上におられる間は世の光として生まれ、多くの人に救いといやしと希望を与えられた。そしてこのイエスが自分の罪の身代わりとなって十字架にかかってくださったと信じ受け入れる者は誰でも救われ神の子とされ、世の光として人々に救いの道を示すことができるようになるのである。